

Green Brave

10th Anniversary

Powered by **HANKOOK**
driving emotion

Super Taikyu 

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022

Powered by Hankook

第1戦 SUZUKA 5時間耐久レース

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

3月19日(土) ~ 3月20日(日)

鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

■ ■ ■ 長丁場の開幕戦を得意のピット戦略で制す ■ ■ ■

スーパー耐久の2022年シーズンが鈴鹿で開幕。Green Braveは今年もクラウン RS でフル参戦します。ドライバーは昨年同様、服部、吉田、川合のGBドライバートリオ。ピット作業を担当するのは6名の埼玉トヨペットの店舗メカニックです。

土曜日の天候は曇。予選(20分間)は14時から行われ、Aドライバー、服部選手が開始約10分でコースに入ります。服部選手は2回目のアタックで2分16秒964をマークするも、順位は3位。トップの#39RC350は2分15秒台で、速さが際立っています。Bドライバー、吉田選手は2回目のアタックで2分16秒368をマークするも、ライバルが吉田選手のタイムを上回り、順位は3位。A、B両ドライバーの合算タイムにより、予選3位となりました。Cドライバー、川合選手は決勝に向けたシミュレーション走行を行い、1位。コーナーの多い鈴鹿はクラウンRSが苦手としているコースで、ライバルとのスピード差が如実に表れましたが、これはもともと想定内。決勝は店舗メカニックの素早いピット作業でライバルの前に出る作戦です。

日曜日の天候は晴れ。5時間の決勝レースは11時44分にスタート。トップバッター、川合選手は順当なスタートを決め、3位をキープします。ペースは良好で、トップの#39RC350、2位の#25 フェアレディZに離されることなく走行。5周目に他クラスのアクシデントが発生し、7周目にFCY(フルコースイエロー)導入。すぐにSC(セーフティカー)の先導に切り替わります。上位4台までの間隔がリセットされ、10周目から再スタート。再び上位3台によるトップ争いとなります。24周目、上位3台が接近し、その差は1秒以内に。翌周には上位2台の順位が入れ替わり、川合選手は#39RC350の背後にピタリとつけますが、27周目に2回目のFCYが導入され、仕掛けることができません。川合選手は34周目の終わりにピットイン。作戦通り、店舗メカニックが給油とタイヤ交換を素早く行い、吉田選手を送り出します。

2位でコースに復帰した吉田選手は37周目、ピットアウトしてきた#39RC350を1コーナー手前で抜き去りトップへ。力強い走りで引き離し、41周目にリードは11秒まで拡大します。その後も吉田選手の快走は続き、2時間半経過時点(57周)で約20秒差に。65周目の終わりに吉田選手がピットイン。給油とタイヤ交換を行い、服部選手に交代します。服部選手は2位で再スタートをきると、トップのクルマのピットインにより、68周目にトップへ。店舗メカニックの目にもとまらぬ早技により、2位の#39RC350に25秒以上の差をつけています。服部選手は後続とのギャップをコントロールしながら周回。タイヤの摩耗が進んだ終盤にライバルの追い上げにあいますが、トップをキープしたまま90周目の終わりにピットイン。給油とタイヤ交換を行い、再び川合選手に交代します。コースに復帰した川合選手の順位は2位。3回目のピット作業もミスなく終えており、92周目に難なくトップへ返り咲きます。終盤、#39RC350に3秒差まで詰め寄せられますが、川合選手は集中力を切らさずにポジションを守り切り、トップチェッカー。3人のドライバーと店舗メカニックの目を見張る活躍により、最高のスタートをきることができました。次戦は早くもシリーズの天王山、富士24時間。2連勝を記録し、チャンピオン争いをリードできるか非常に楽しみです。

決勝結果 (ST-3クラス)

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

(服部尚貴 / 吉田広樹 / 川合孝汰)

決勝: 1位 (120周、5時間02分02秒147)

予選: 3位 (合算タイム4分33秒332)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

すごくうまくいきましたね。雰囲気的には表彰台が目標で、一番前は難しいと思っていたのですが、走り出してみたら、序盤からトップ争いに加わることができました。そのあともメカのタイヤ交換の早さのおかげで、ライバルの前に出してもらい、なおかつ貯金をつくられました。今日の優勝はドライバーというよりもメカの力のおかげだと思います。去年の5時間レースではいいところがなかったの、GB10周年の初戦で勝ったのは良かったです。

【吉田広樹選手】

クルマのバランスが良かったわけではないのですが、まわりも落ちている中で、自分たちの落ち幅が少なかったのかなと思います。自分のステイントをもたせることを最後まで意識して走りました。マージンを維持して服部さんに渡せたので良かったです。5時間レースでなかなか勝てなくて、去年優勝できたのも3時間でした。そういう意味ではいいスタートができたと思います。次の24時間では今回の結果を活かして戦いたいです。

【川合孝次選手】

いっぱいっぱいの走りでした。タイム差を気にしていたのですが、後ろを見て走っているとタイムをおとってしまうので、とにかくミスしないことを心がけて走っていました。FCY、SCがあったおかげで燃費が稼げたので、それがすごく大きかったと思います。厳しいレースになると予想していたのですが、チーム全員の完璧な仕事のおかげで、なんとか優勝で終わることができました。他のカテゴリーでも優勝できるように頑張りたいと思います。

MECHANIC VOICE

【埼玉南支店・栗原シナン】

初めてレースに参加しました。給油を担当したのですが、力を入れて給油機を接続しないと押し返されてしまうので、踏ん張ってガチっと入れる必要があります。ピットインの際、最初の作業が給油になるので、ぼくがあたふたするとまわりの人に迷惑をかけてしまいます。そういうところで自信につながり、まわりを見られるようになるかなと思います。

ST-3 クラス 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	120 周
2位	エアバスター Winmax RC350 55 ガレージ TWS(レクサス RC350)	120 周
3位	Team Fukushima Z34(日産 フェアレディ Z)	119 周
4位	岡部自動車 Z34(日産 フェアレディ Z)	118 周
5位	muta Racing LEXUS RC350 TWS(レクサス RC350)	117 周
6位	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z(日産 フェアレディ Z)	116 周


天候は晴、出走 6 台

ST-3 クラス ポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	30
2位	39	TRACY SPORTS with DELTA	24.5
3位	31	1FKS team fukushima	18
4位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	15
5位	63	TRACY SPORTS	12
6位	25	TEAM ZEROONE	9

発表前のため、手入力

PARTNERS

 赤城車体工業株式会社 akagi body industry Co.Ltd. http://akagipeta.jp	 EMG ルブリカンツ合同会社	 株式会社エヌ・ティ・コーポレーション	 株式会社 FM NACK5
 株式会社 岡崎巧芸	 株式会社カーグラス・JP	 株式会社カロツツエリアジャパン	 埼玉群スリーボンド株式会社
 株式会社三和広告社	 JU 埼玉オートオークション株式会社	 株式会社西武ライオンズ	 株式会社タンエイシャホールサプライ
 株式会社デンソーソリューション	 株式会社ドーム	 トヨタホーム東京株式会社	 富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
 株式会社プロモーション	 株式会社プロモーション	 丸和工業株式会社	 Mechanix Wear LLC